

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな 経済フラッシュ

## (9月ECB＜欧州中央銀行＞理事会)

2018/9/14

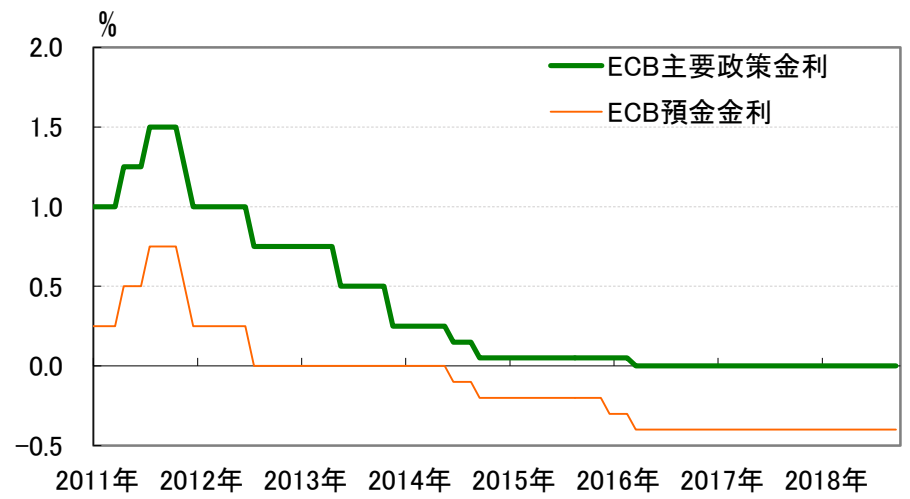
りそなホールディングス 市場企画部

### ○概況

- ◆ 政策金利据置き、7月会合から目立った変更はなし
- ◆ 量的緩和の年内終了と2019年夏まで政策金利据え置きを再確認
- ◆ 保有債券の満期償還金の再投資戦略については議論せず

- ✓ 9月13日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、政策金利を据え置き、主要リファイナンス金利を0.00%、中銀預金金利は▲0.40%、中銀貸出金利は0.25%とした。
- ✓ 以下3点を再確認。①量的緩和の年内終了②10-12月の間は量的緩和規模を縮小(資産買入規模：月300億ユーロ→150億ユーロ)③2019年夏まで政策金利を据え置き。
- ✓ 声明文では、足元の堅調な経済が続き、インフレ率が徐々に上昇していくと従来の見方が踏襲されたが、一方で保護主義の不透明感、新興国市場の脆弱さ、金融市場のボラティリティ上昇がリスクとして指摘された。
- ✓ ECBスタッフ見通しでは市場予想通り、6月時点と比較し、2018年、2019年の実質GDP成長率がそれぞれ下方修正された(2018年：+2.1%→+2.0%、2019年：+1.9%→+1.8%)。
- ✓ ドラギ総裁の記者会見では、「堅調な経済と賃金上昇を背景にインフレ率は大幅に上昇する」とインフレ見通しについて強気な見方がなされた。他方、足元の新興国動向について、世界経済の不透明性を高める材料の一つだが、トルコやアルゼンチンからの波及効果は大きくないと認識を示した。
- ✓ 今回の会合では7月会合のスタンスから大きな変更はなく、政策金利も2019年夏まで据え置きとの見通しを継続した。市場で注目されていた保有債券の満期償還金の再投資戦略への具体的な話は出ず、新たな材料には乏しい結果となった。

### 【ECB政策金利と預金金利】



### 【ECBスタッフ見通し (9月時点)】

	2018年	2019年	2020年
<b>実質GDP成長率</b>	<b>+2.0</b>	<b>+1.8</b>	<b>+1.7</b>
6月時点の見通し	+2.1	+1.9	+1.7
<b>HICP</b>	<b>+1.7</b>	<b>+1.7</b>	<b>+1.7</b>
6月時点の見通し	+1.7	+1.7	+1.7

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg